平成３０年度岐阜県大会

生徒講評文

８月　　２日　　５校目　　加納　高等学校

彼の子、夏を送る

（既成・創作）

この作品は、過去にとらわれ、何かを待ち続けている主人公が、自分が何を待ち続けていたかに気づき、乗り越えて行く物語でした。何かを待ち続けるみぞかなと何かを待たせているさくら。姉妹の想いが、新盆の晩に交錯するラストシーンが、とても感動的でした。

キャストは、全員の声がきれいに通っており、ハキハキした声でとても聞き取りやすく、日ごろの発声練習の成果がよく現れていたのではないでしょうか。一人一人の動きにも個性がはっきり出ており、金魚や通行人などを演じる役者も、全員がしっかりと存在感を出していました。ダンスの動きも見事でした。

衣装では、設定と役に合うように、色合いを似せたり、体操服で学年を表したりしていて良かったと思います。

音響、照明では、ダンスや花火の表現がとても効果的にできていました。場所や時間帯も照明の変化でわかりやすく表されていました。ただ、花火が光よりも音が先行してしまったところがあり、実際はその逆なので、こういうところにもう少し細かい考慮をした方が良いという意見が出ました。

装置は、四本の柱と提灯で、祭りやお盆という場面を象徴的に表現していました。全ての提灯に灯りを点ける緻密さも素晴らしかったです。

笑える場面とシリアスな場面の交錯、おおぜいの役者のアンサンブル、高度な演技力と舞台美術で常に観客を巻き込みながら、その中で「待つ」というテーマが貫かれ、主人公が姉を追い抜くラストにいたるまで飽きさせない、とても充実した舞台でした。

加納高校の皆さん、お疲れさまでした。

揖斐高校　平野未来　村瀬ひかり

ん